

29K-am05S

テロメラーゼ阻害物質 UCS1025A の新規安定型類縁体の合成

○佐野 竜太¹, 小菅 亮¹, 坪郷 哲^{1,2}, 内呂 拓実^{1,2} (¹東京理大薬, ²東京理大戦略的物理製剤学研セ)

【目的】UCS1025A (**1**)は、2002年に協和発酵工業の研究グループによって糸状菌 *Acremonium* sp. KY4917 株から見出されたテロメラーゼ阻害物質である。本化合物は、極性溶媒中で3種類の互変異性体の平衡混合物となることが明らかにされている。そこで演者らは、ラクタム環のβ位に存在するエステル構造をエーテル構造に置き換えた新規安定型類縁体 **2** を設計し、その合成について検討した。

【方法・結果】Hoye らによって報告されている二環性化合物 **3** を出発物質として用い、エステル部位の還元反応と *oxy*-Michael 反応を経て三環性化合物 **4** を得ることができた。さらに、シクロヘキサンカルボニル基の導入を通じて、モデル化合物 **5** を合成することができた。現在は、**1** のデカリン骨格部位と二環性化合物 **3** との連結反応を経由して、望みの **2** を得る段階について検討している。

